



第1回アクティブ・ラーニング推進リーダー研修会

演題 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの視点
ー学び手側からの発想と教科の側からの発想ー

講師 東京学芸大学 准教授 中村 和弘 先生

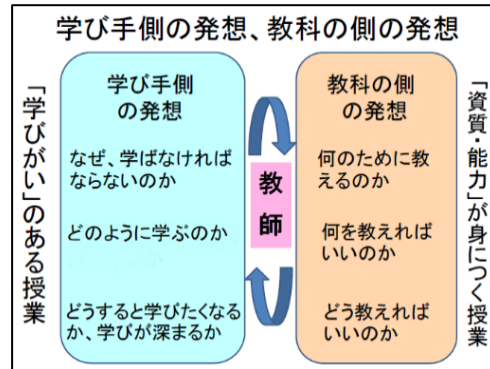
(平成30年7月27日(金) 富山市婦中ふれあい館)

「学び手側」・「教科の側」の両面からの発想で授業づくり



「何を教えればいいのか、どんな力を付けばいいのか、どう教えればいいのか」という教科の側の発想だけでなく、「どのように学ぶのか、どうすると学びたくなるか、学びが深まるか」という学び手（子供たち）側の発想を重視します。

このことが、「資質・能力」を身に付けることと「学びがい」を両立させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながります。



「主体的な学び」につながる授業づくり

○ 自分のこととしての課題を追究する

- ・ 子供自身が興味をもち、自分事としての「問い」や「目的」をもって追究する学習活動を設定しましょう。
- ・ 子供が「学び手」として、どう成長したのか、学習活動を振り返って意味付けさせたり身に付いた資質・能力を自覚させたりしましょう。

子供たちの「主体的な学び」につなげるために、学習活動に選択の場を設定する方法もあります。子供自身に活動を選択させることにより、目的をもって粘り強く取り組ませることができ

【選択の例】 ・ 読み取る文章の選択（複線型の授業構成等）
・ 考えの表現の仕方の選択（図や表の活用、記録用紙等）

第1次（3時間）

説明的文章の段落構成や筆者の工夫等の読み方を習得する。

第2次（4時間）

2つの説明的文章のどちらかを選択し、グループになって読み取る。

第3次（3時間）

もう一方のグループの友達に説明的文章の内容を伝える。

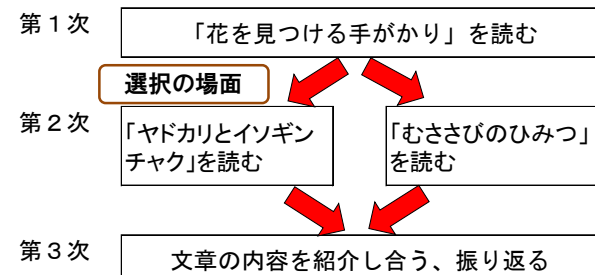
【ポイント】

- ・ 段落構成や説明の仕方の工夫が似ている教材を用意すると、子供たちが、学んだ知識や技能を活用して内容を読み取ることができます。

小学校4年国語科「グループで読みとった内容を、他のグループに伝えよう」の指導計画

説明的な文章の授業 「ヤドカリとイソギンチャク」「むささびのひみつ」

【選りながら学習する実践例】



「対話的な学び」につながる授業づくり

○ 考えを支え合い、広げ深める

- ・ 学習の中で、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、多様な資料、先哲の考え方等を手掛かりに、自己の考えを広げ深める課題や状況を用意しましょう。
- ・ 考えを出させることばかりに目を向けず、うまく言葉にできない状況を大切に、話し合い等を通して、子供同士が教え合い、認め合い、支え合うようにしましょう。

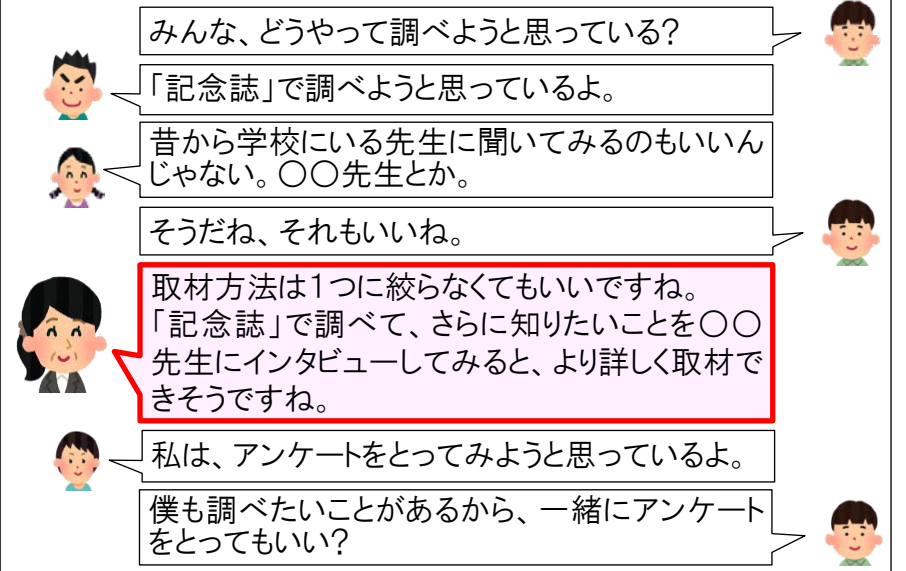
右は、「学校紹介リーフレット」を作るための取材計画を立てる授業の中で、取材内容や方法を考えている子供たちと先生とのやりとりの一部です。

【ポイント】

- ・ 子供同士が取材方法のアイデアを広げています。
- ・ 教師は、子供たちの話し合いに耳を傾けながら、考えが深まるよう、さりげなくアドバイスをしています。



小学校4年国語科「学校紹介リーフレット」の授業展開
【互いの考えを支え合い、自己の考えを広げ深めていく学習の実践例】



「深い学び」につながる授業づくり

○ 各教科等の「見方・考え方」を大切にする

- ・ 国語科では「相手がそう言っているのは、なぜだろうか」「相手はこう言っているけれど、きっとこんな気持ちなんだろう」というように、相手が言っている内容だけではなく、文中の「言葉」にどんな意味が込められているのかを考えさせる必要があります。
- ・ 「言葉」に着目させ、「言葉による見方や考え方」を働かせながら、言語活動に取り組ませることが大切です。

小学校4年国語科「ごんぎつね」（6場面）授業展開

「その明るる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。兵十は、物置でなわをなっていました。それで、ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました。」

【授業展開例A】（内容を読み取るだけの授業）

- T 「その明るる日、ごんはどこに行きましたか」
- T 「何をしに行ったのでしょうか」
- T 「そのとき、兵十はどこにいて何をしていましたか」
- T 「そこでごんは、どうしましたか」
- T 「どうやって入りましたか」

- ・ 読み取り（確認）が中心になっている。
- ・ 言葉についての発見ができず、深まりがない。
- ・ 自分の考えを伝えることが苦手な子供も答えることができる。

【授業展開例B】（「言葉による見方や考え方」を働かせた授業）

- T 「ごんが『こっそり』中に入ったのは、なぜでしょう。」
- T 「『こっそり』入るとは、どのように入ったのでしょうか。」
- T 「ごんの気持ちを兵十は知らないのだけれど、ごんはそれでもいいのでしょうか。」
- T 「『こっそり』と来なければならないごんのことを、どう思いますか。」

【ポイント】

- ・ 「こっそり」という言葉に着目させることにより、登場人物の気持ちについて考えが深まります。

